

ふるさとわがまちづくり

野口自治区

◆「野口町」のおかし

市街地から国道153号線を足助地区に向かい、中金小学校を過ぎて間もなく行くと野口町があります。

野口町は、飯田街道(またの名を中馬街道といい、現国道153号線)沿いに細長くできた町で、周囲は小高い山々が連なっています。

野口に人が住みつくようになったのは古く、この地にある増慶寺が、推古天皇7年(西暦599年)の創立(ちなみに、この地方の寺院は1300~1700年代)ということからも既にこの当時から人が住んでいたと推察されます。

また野神社と呼ばれるこの神社も、文徳実録や国内神明名帳にも記されてあることなどから相当古い神社であると思われます。そのためか、毎年10月8、9日の両日ここで行われる祭礼はたいへん賑やかなものでした。近隣の村々から若衆がハッピー姿で馬にそれぞれ趣向をこらした鞍を置き、神社に集まって境内を引き回す様は勇壮なもので、それは見事なものでしたが、この祭りも次第に馬が減って、この40年くらい前から馬引きは姿を消しています。



◆飯田街道

飯田街道は、昔、綿や生糸、煙草などが飯田方面から、また反対に魚、昆布、塩などが飯田へと馬で運ばれていました。その後明治30年、駅馬車が越戸まで開通、大正に入って足助まで行くようになり当時、駅の発着にラッパを吹いたものですが、このラッパの音色が「馬車のれのれ、銭がなきやよせよせ」と聞こえたということです。

◆「しゃくやく姫」の伝説

足助七城に桐生ヶ城という城があり、この殿様に女の子が生まれました。丁度5月も半ば、お城にはシャクヤクが花盛りだったので、名前をシャクヤク姫と付けました。姫はすくすくと成長し、日に日に美しくなり、きれいなお姫さんとして町中の評判



しゃくやく姫の塚

でした。しかし、あるとき武田の軍勢がこの城を攻めてきました。姫は城を追われ、この野口まで逃れてきましたが、もはやこれまでと畑の中にあつた井戸に身を投げて最後を遂げたと言われています。いつ頃からかこの井戸を埋めて塚が建てられました。その後、毎年5月になると、この塚には見事なシャクヤクが咲き、シャクヤク姫を愛おしんでいます。



野口雨情の碑

◆まちづくり

野口町の戸数は現在57戸、昭和20年頃30戸以下になったこともありますが、少しずつですが増える傾向にあります。急激に変わることはないでしょうが、これからも恵まれた自然の中に明るい生活が営めれば良いと思います。

野口自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：57世帯
：42世帯(昭和52年)
組数：8組
面積：3.018K㎡
自治区たより：「しゃくやく」年4回
回覧：月2回
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：6箇所
小学校：中金小学校区
自治区会館：野口町公民館